

調 査 書 作 成 上 の 留 意 事 項

中学校長は、正確公正を期して調査書を作成するため、校内に調査書等作成委員会を設置すること。
調査書の作成に当たっては、所定の生徒指導要録等に基づいて、生徒に関する客観的な資料となるよう十分留意すること。

I 記入上の全般的注意

- 1 調査書の作成に当たっては、本校ホームページに掲載されている様式を用いる。また、手書きの場合は、黒のペンを用いる。ただし、鉛筆書きした原本を複写してもよい。
- 2 令和8年3月卒業見込みの者の調査書には、令和8年1月31日までの事項を記入する。
なお、調査書の発行日は、令和8年2月1日以降（2月1日を含む）の日付とすること。
- 3 数字は、すべて算用数字を用いる。
- 4 誤記を訂正する場合は、消しゴム、ナイフ、修正テープ等を用いず、記載責任者が訂正箇所を二重線で消して訂正する。
- 5 ※No.の欄は記入しない。
- 6 卒業年月欄の右側の欄については、「卒業見込」、「卒業」のいずれか一方を記入する。中等教育学校前期課程においては「修了見込」、「修了」のいずれか一方を記入する。
- 7 調査書等作成委員会の欄には、記載責任者の認印を押す。
- 8 作成した調査書は、必ず印刷をした上で生徒指導要録等の原本と相違ないかを複数の担当で照合、確認すること。

II 各欄記入上の注意

- 1 「各教科の学習の記録」の欄について（Ⅰ類型）
1年から3年までの評定を生徒指導要録等に基づき**5段階**で記入する。
※の縦の欄は記入しない。
「各教科等の学習の記録」の欄について（Ⅱ・Ⅲ類型）
1年から3年までの学習状況を生徒指導要録等に基づき文章で記入する。欄が不足の場合には適宜スペースを広げ、2ページになってもよい。
- 2 「総合的な学習の時間の記録」の欄について（Ⅰ類型）
学習活動及び学習評価の観点の中で顕著な事項や成長の様子を生徒指導要録等に基づき総合的に記入する。
- 3 「行動の記録」の欄について（Ⅰ類型）
第3学年について記入する。項目ごとにその趣旨に照らして「十分満足できる状況であると判断される場合」に、○印を記入する。

4 「特別活動等の記録」の欄について（Ⅰ類型）

特別活動等における生徒の活動状況について、該当する事項を適宜番号で示し、事実及び所見を記入する。

5 「スポーツ活動、文化活動、社会活動、ボランティア活動等の記録」の欄について（Ⅰ類型）

上記各分野のいずれかにおいて、次の（１）～（４）に該当する場合は、その内容を具体的に記述する。該当しない場合には斜線を引くこと。

（１）スポーツ活動

校内外の活動において、特に優れた体育記能力を有する者（これまでの中学校体育連盟等の運動競技会において、県大会以上の大会で優秀な成績をおさめる等）

（２）文化活動

校内外の活動において、特に優れた文化的能力を有する者（これまでの芸術作品展示会や発表会等の文化的活動において、県大会以上の大会で優秀な成績をおさめる等）

（３）社会活動

中学校の特別活動などにおいて、継続的に活躍するなど、特に優れたリーダー性を有する者

（４）ボランティア活動

校内外において１年以上の長期間にわたり奉仕的活動に携わり、その活動が特に顕著であると認められる者

6 「欠席の状況」の欄について

欠席日数の欄に数字のみを記入する。

7 「特記事項」の欄について

この欄には、次の項目で特記すべきことがあれば、該当する事項を番号で示し、生徒指導要録等に基づき記入する。

（１）就学中の転・編入学に関すること

（２）各教科の学習状況に関すること

（３）行動の記録に関すること

（４）健康状態に関すること

（５）進路に関すること

（６）その他

8 県外からの出願者、海外帰国者等の出願者、過年度卒業生の出願者、特別支援学級からの出願者については、右上の ☐ の中に、それぞれ**県外**、**海外**、**過卒**、及び**特支**と記入する。例えば、県外からの過年度卒業生が出願する場合は、**県外・過卒**と記入する。

Ⅲ その他

1 記載内容等について特別な事情がある場合は、副申書を添付することができる。

2 令和２年３月末日までに中学校を卒業した者については、生徒指導要録の「学籍に関する記録」に相当する内容のみ記入する。

なお、卒業証明書をもって調査書に代えることができる。